

理科 小学校 4年

単元の流れ（全6時間）

【第1次】<ほねと関節>

◇第1時 「うでの関節を調べよう」

- 腕の関節を調べ、関節の場所や働きについて知る。

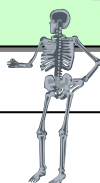
第1時詳細ページ [CLICK](#)

◇第2時 「体の関節を探る」（本時）

- 骨の存在を意識し、「関節」の場所について調べるとともに、骨が体を支え、体の器官を守っていることを知る。

第2時詳細ページ [CLICK](#)

「活用」の力育成のために
交流することにより概念の質を高める。（ポイント①）



【第2次】<ほねときん肉>

◇第3時 「うでのきん肉の変化」

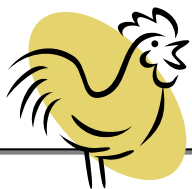
- ものを持ち上げたときの体の変化を観察し、筋肉の働きについて考える。

第3時詳細ページ [CLICK](#)

◇第4・5時 「体のつくりを探ろう」

- 手羽の解剖をし、筋肉と骨とのつながりを調べたり筋肉の働きについて実感したりする。

第4・5時詳細ページ [CLICK](#)



「活用」の力育成のために
気づきや疑問を自分の言葉でまとめる。（ポイント②）

【第3次】<動物園に行こう～動物の体のつくり～>

※博物館、ふれあい牧場等でもよい。

◇第6時 「動物の体のつくり」

- 複数の動物を観察しそれぞれの体について調べる。
- 動物の体のつくりも、それぞれの環境にあった生命活動に関連していることに気付く。

第6時詳細ページ [CLICK](#)

「活用」の力育成のために
前時までの学習と関連づけて考えさせる。（ポイント③）



[本時の流れへ](#)

[評価問題](#)

[授業展開例へ](#)

[HOME](#)

単元名 ヒトの体のつくりと運動 啓林館「わくわく理科4」

単元目標

- 骨や筋肉の動きを調べ、ヒトの体のつくりと運動との関わりについて考えることができる。
- ヒトの体には骨と筋肉があり、ヒトが体を動かすことができるのは、その働きによることを知る。

単元構成の意図

本単元は、自分の体のつくりに関心を持ち、体が動く仕組みや、関節の位置、骨と筋肉の働きなどについて学習する。

児童が主体的に学習を進めるために、はじめに「腕」の関節について調べる。その学習で得た知識をもとに、児童自ら課題意識を持ち「体の他の部分」へと視点を移し、調べるという学習とした。また、実際に体を動かし、関節を曲げたり、筋肉の収縮の変化を感じとったりしながら、ヒトの体にはたくさんの関節があることに気付かせたり、体を動かすためには筋肉が必要で、どんな運動と関係しているかを考えさせたりすることとした。また、ほ乳類（ウサギ、モルモット等）等の飼育動物に実際に触れ、動物の体のつくりについて理解を深めるとともに、それらが動物の生活に応じた運動に関連したつくりであることを理解させたい。

「活用」の力を育てるポイント

- ① 観察によって気付いたことを書き、お互いに交流することで、共通点や相違点を見つけ比較し概念の質を高める。
- ② 観察した時の驚きや気づき、不思議に思ったことを記録し交流させたり、以後の学習で自分の思考の変容に気付かせたりする。
- ③ 前時までの学習記録と関連付けて考えさせ、自分の言葉でまとめる力を付ける。そのために児童のノート等を用いて個別に支援する。